

9月議会 一般質問

- ①高齢者の情報格差解消
- ②生きがい支援と健康長寿
- ③コミュニティ・スクールについて質問しました！



詳しくはYouTubeでも
ご覧いただけます
(7:00~)



1 高齢者の 情報格差解消へ

デジタル化が急速に発展する一方、高齢者の情報格差が深刻化しています。

内閣府の調査（2020）を本市の年齢別人口に当てはめると、60代以上の約1万人がスマホを「ほとんど利用していない」推計に。

命に関わる防災情報もデジタルが主流になる中、格差を解消する市の取り組みを聞きました。

市によると「触って体験！スマートフォン講座」など高齢者向けの講座を行っていますが、参加人数は芳しくありません。行政による相談窓口開設や巡回相談会、先進自治体を参考に取り組みを検討しているということでした。

確かに、デジタルを学ぶことは高齢者にとって負担も大きいです。しかし、今後行政サービスの9割以上がデジタル化されるといわれています。格差解消は避けては通れません。

正確な実態把握とサポート

強化を要望しました。

2 生きがい支援と 健康長寿

館山市の高齢化率は4割を超え、今後2040年にかけてさらに上がる推計です。

しかし、医療・福祉の充実した館山、安房です。高齢者が住み良い福祉のまちを進めることで、新たな発展の可能性があるのでないでしょうか。

そこで今回は、健康寿命を伸ばすための市の取り組みやサポートについて聞きました。

高齢者保健福祉計画のアンケートでは「趣味関係のグループ」に参加する割合が最も高く、コミュニティーセンターのサークルは129団体と活発です。

サロンやシルバー人材センター、老人クラブや健康体操など、さまざまな取り組みも展開する中、より多くの参加者を迎えられる情報提供、また楽しい場づくりをさらに進めてほしいと思います。

3 コミュニティ ・スクール

国、県は地域とともにある学校「コミュニティ・スクール」という地域住民らの意見を学校運営に反映させる仕組みを推進し平成29年には設置が努力義務化されました。

令和4年5月現在、県内小中学校では合計19市町村191校で導入され、同5年

はさらに増加しています。

そこで本市の導入の可能性を聞いたところ、すでに地域とさまざまな連携があり、現時点では考えていないという回答でした。

一方、学校再編の取り組み次第で学区が広がる可能性があり、それを踏まえて検討していくようです。

コミュニティ・スクールは現行の学校評議員制度と異なり、地域の権限を強めた仕組みで、学校の課題を解決するため、地域住民が主体的に参加するようになったという近隣市の声も聞いています。

私としては、他2つの質問とも関連して、より多くのご年配の方々と児童・生徒が触れ合う機会を増やしてほしいと願います。彼らの教育にとっても、健康長寿にとっても、引いては子育て環境の充実化にもつながっていくと考えます。

終わりに



総務委員会の行政視察で、北海道の北斗市、森町、函館市地域交流まちづくりセンターに伺いました。

人口空白地の交通や移住促進、公共施設の管理、交流の活性化などさまざまな取り組みを調査しました。

内容はHPにまとめていますので、ぜひご覧ください。